

1 研究テーマ及び目標

（1）研究テーマ

本校は平成30年度に「心のきずなを深めるモデルプログラム」の研究指定を受け、「南稜生の豊かな生活と未来のために～自己理解と表現・対人スキルの向上を目指して～」をテーマに、「南稜スタンダード」による分かる授業の展開や、学校行事等において生徒に役割を与えて主体的に考え行動させる取り組み、またクラスの室長と保健委員を中心とした「ピア・サポート研修」の取り組み等をとおして、生徒の自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を向上させて、人間性豊かな集団づくりを目指してきた。特に公開授業において、「ピア・サポート研修」の授業を生徒自身が進行し、傾聴スキルを身につけさせ、クラスのゲートキーパーを育成する取り組みは高く評価された。今年度はこの取り組みをさらに発展させて高校3年間を見通したものにすべく、「SOSの出し方に関する教育」研究指定校として取り組むこととなった。

本校における課題として、自己肯定感やコミュニケーション能力が低く、他者の気持ちを汲み取ることが困難な生徒が多いことから、相手を顧みない言動によってトラブルになったり、相手を傷つけたりするケースが増えてきていることが挙げられる。さらには、スマートフォンの普及に伴い、コミュニケーションの手段として活用させる一方で、インターネット上での不適切な投稿や誹謗中傷・いじめ等の問題も発生している。このような現状と昨年度の取り組みを踏まえ、今年度におけるテーマを「南稜生の豊かな学校生活と未来のために～困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルの向上を目指して～」と設定した。

（2）目標

上記の研究テーマで研究を進めていく上での目標について、昨年度取り組んだ目標のうち主な2つにしばる形で次のように設定した。

- ①自己肯定感と他者理解の向上による人間性豊かな集団づくり
- ②困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルの向上

（3）研究仮説の設定

本研究における研究仮説についても、昨年度の取り組みを継続していく形で、次のように設定した。

- ①生徒に役割を与えて主体的に考え行動させ、成功体験を重ねることで、自己肯定感が高まる。
- ②他者を理解し、傾聴スキルを身につけさせれば、互いに悩みや相談事を話したり聞いたるようになる生徒が増える。

2 研究概要

(1) 研究仮説に対する具体的取り組み

研究仮説	具体的取組
①生徒に役割を与えて主体的に考え行動させることで、自己肯定感が高まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「南稜スタンダード」による分かる授業の展開 ・学校行事等における取り組み
②他者を理解し、傾聴スキルを身につけさせれば、互いに悩みや相談事を話したり聞いたりするようになる生徒が増える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポート研修 ・G R I P研修 ・研究授業（10月23日）

(2) 研究日程

月 日	取組の名称	対 象
5月 8日（水）	ストレス対処教育LHR	全学年
5月14日（火）	生徒理解研修	職員
6月 5日（水）	心のアンケート（第1回）	全学年
6月 5日（水）	ピア・サポート研修（第1回）	生徒
6月17日（月） ～21日（金）	公開授業週間	全学年
6月19日（水）	人権教育LHR	全学年
7月11日（木）	ピア・サポート研修（第2回）	生徒
9月19日（木）	「SOSの出し方に関する教育」職員研修（第1回）	職員
9月20日（金）	G R I P研修（第1回）	生徒
9月28日（土）	体育大会	全学年
10月 1日（火）	G R I P研修（第2回）	生徒
10月 9日（水）	G R I P研修（第3回）	生徒
10月16日（木）	「SOSの出し方に関する教育」職員研修（第2回）	職員
10月18日（金）	ピア・サポート研修（第3回）	生徒
10月21日（月） ～25日（金）	公開授業週間	全学年
10月23日（水）	「SOSの出し方に関する教育」研究発表会	全学年
10月25日（金）	人権教育講演会	全学年
11月 7日（木）	収穫感謝祭	全学年
11月 9日（土） ～10日（日）	南稜祭	全学年
11月13日（水）	ピア・サポート研修（第4回）	生徒
12月18日（水）	心のアンケート（第2回）	全学年

3 主な取り組み

(1) 「南稜スタンダード」による分かる授業の展開

本校では、生徒たちが主体的・対話的で深い学びに取り組むことができるようにするための授業改善の指針として「南稜スタンダード」（資料1）を定めており、それに従って授業を進めている。具体的には、毎時の授業で本時の目標を明示したり、1つの指示で1つの行動を促す指示を行ったり、



ICTやワークシートを工夫して分かりやすい教材を活用したりするなど、生徒たちが取り組みやすいように授業を展開している。また、中学校までの既習事項を振り返る学習活動を取り入れたりしながら生徒たちの授業理解度を高め、分かる授業づくりを目指している。

専門科目においても様々な取り組みを行っている。普段の実習や学科の授業の他に、それぞれの学科・コースにおいて大学や専門学校、事業所等から講師を招いての講座や実習を取り入れ、専門的で実用的な知識や技術を学んでいる。また、近隣の小学校や支援学校との交流学习や、地域住民の方への開放講座等も実施しており、生徒たちが講師役としてこれまで実習で学んだことを教えている。このような取り組みをとおして、生徒たちの専門科目の知識や技術が向上し、自己有用感が高まると考えられる。



学科・コース	主な外部講師による講義・実習／交流学习
普通科体育コース	ボッチャ体験（支援学校）
普通科福祉コース	介護職員初任者研修、認知症サポーター養成講座、手話講習
総合農業科	繁殖技術講習会、林業就業者支援講習、知的財産に関する講習／寄せ植え体験（支援学校）
食品科学科	調理・加工技術研修、焼酎品評会／パン作り体験（小学校）
生活経営科	郷土料理講習会、保育講話／動物ふれあい体験（小学校）

（２）学校行事等における取り組み

本校では、学校行事を行う際に、生徒に役割を与えて、生徒が主体的に行事に取り組むことで自己肯定感や自己有用感の向上を図っている。例えば生徒会や農業クラブ主催の集会において、全校生徒の整列指示や会の進行を生徒が行っている。また文化祭においては、米や草花、肉加工品など実習で生産した物を一人ひとりが役割を持って販売しているが、お客さんからの感謝や喜びの声に、生徒たちの自己肯定感や自己有用感も向上しているものと考えられる。



（３）ピア・サポート研修

本校ではこれまでスクールカウンセラーと連携し、年に４～５回程度各クラスの保健委員を対象にしたピア・サポートの研修を行ってきた。昨年度は「心のきずなを深めるモデルプログラム」の指定を受け、クラス室長も対象に４回の研修を行い、気づいて、寄り添って、受け止めて、信頼できる大人に伝えることができる南稜版ゲートキーパーの育成を図った。１０月の公開授業では教師主導の形ではなく、クラス室長と保健委員がこの研修で学んだことをクラスの生徒に伝える形で授業を進めていった。



今年度は１年生の保健委員を対象に下表の日程で研修を行った。研修は昨年度のピア・サポ

ート研修で学んだ3年生が指導者となって1年生に教えていった。10月23日の研究発表会で行われた研究授業では、昨年同様保健委員の生徒が中心となって授業を進めていった。授業では、ゲートキーパー（門番）の意味と役割、すなわち「気づいて、寄り添って、受け止めて、信頼できる大人に、伝える」（頭文字を取って「きょうしつ（教室）」）ことを理解し、「3つのあいづち」と「3つの質問」を使った話を聴くワークを行った。この取り組みにより、生徒たちが様々な困り事や悩み事を相談し合い、支え合える集団を作っていくことを目指した。



第1回	6 / 5 (水)	16時～17時	“相談する・される”を考える
第2回	7 / 11 (木)	16時～17時	話を聴くスキルを身につけよう①
第3回	10 / 18 (金)	14時～15時	話を聴くスキルを身につけよう②
第4回	11 / 13 (水)	16時～17時	トラブルを解決に導くスキルを考える

(4) G R I P 研修

一方で2、3年生についてはクラス室長を対象にG R I P 研修を下記の日程で行った。G R I Pとは、学校における自殺予防教育プログラムのことであり、Gradual approach（段階的アプローチ）、Resilience（抵抗力・回復力を身につける）、In a school setting（学校環境の中で）、Prepare scaffolding（足場作り）の頭文字をとったもので、生徒たちが「課題に挑戦し回復する力」を身につけ、「自ら傷つけてつらさを紛らわす」パターンに陥らないよう、「学級や集団における援助の成立」を目指したプログラムである。G R I P 研修では、様々な場面での自分の気持ちを言葉にしてみるワークや、嫌な気持ちの対処法を考えるワーク等を行った。10月23日の研究発表会における公開授業では、K I N Oというゲームを行いながら、相談事を持ちかける際の表情について考えるワークを行った。このゲームは4～5人程度のグループを作り、そのうちの1人が「カントク」となる。「状況カード」に書かれた場面でのどのような表情をするか5種類の「表情カード」から1枚選び、伏せた状態で場に出す。「カントク」となった人は、それぞれの表情カードが何枚出されたかを予想して記録用紙に書き、グループの他の人に説明する。その後一斉にカードを表にし、なぜその表情を選んだのかをお互いに話す。このゲームでは、生徒たちに感情や気持ちの持ち方、話のかけ方は人によって異なるということに気づいてもらい、自分の感情を他者に伝えるときのポイントを知り、伝え方を身につけてもらうことをねらいとしている。



第1回	9 / 20 (金)	16時～17時	マインド・プロファイリング (自分の感情の整理・分析/みつける)
第2回	10 / 1 (火)	16時～17時	マインド・ポケット (対処法の理解・習得/たずさえる)
第3回	10 / 9 (水)	16時～17時	K I N O (自分の感情の伝達)

(5) 南稜版「心のアンケート」の実施

本校での取り組みをとおして生徒たちがどのように変容したかを見るために、本校独自の「心のアンケート」（資料4）を6月と12月に実施した。アンケートの質問に対する回答は「そう思う」、「まあそう思う」、「そう思わない」の3つから選ぶようになっている。資料4の統計は「そう思う」と「まあそう思う」と答えた割合の過去4回分の推移である。

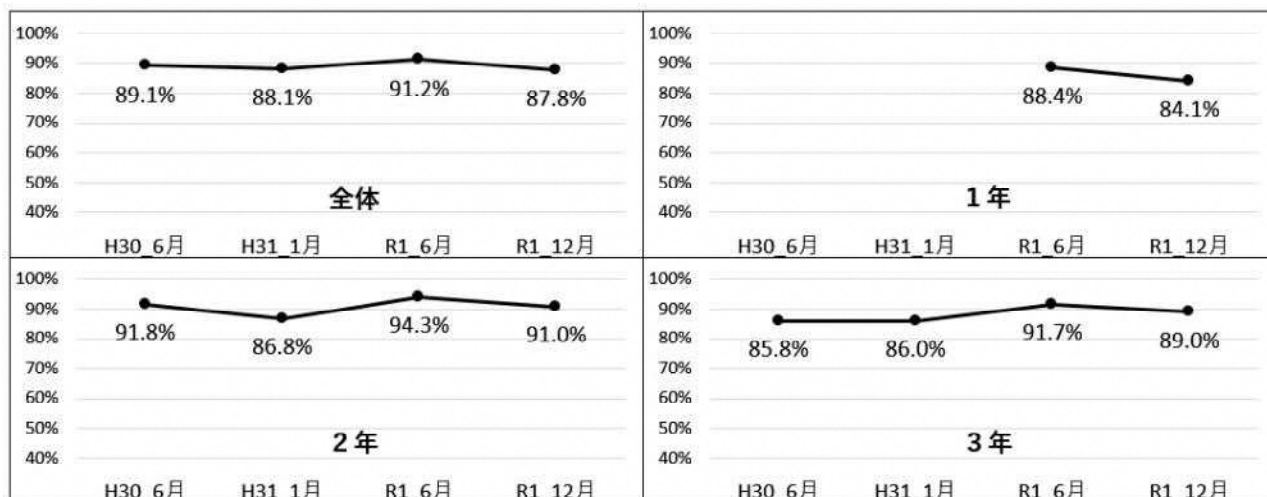
また、自尊感情アンケート（資料5）を1月に実施し、生徒の自己肯定感・自己有用感がどのように変化したかを測った。自尊感情アンケートの質問に対する回答は「そうだ」、「ややそうだ」、「ややちがう」、「ちがう」の4つから選ぶようになっている。資料5については、昨年度と今年度における肯定的な回答の割合を載せている。

4 仮説の検証

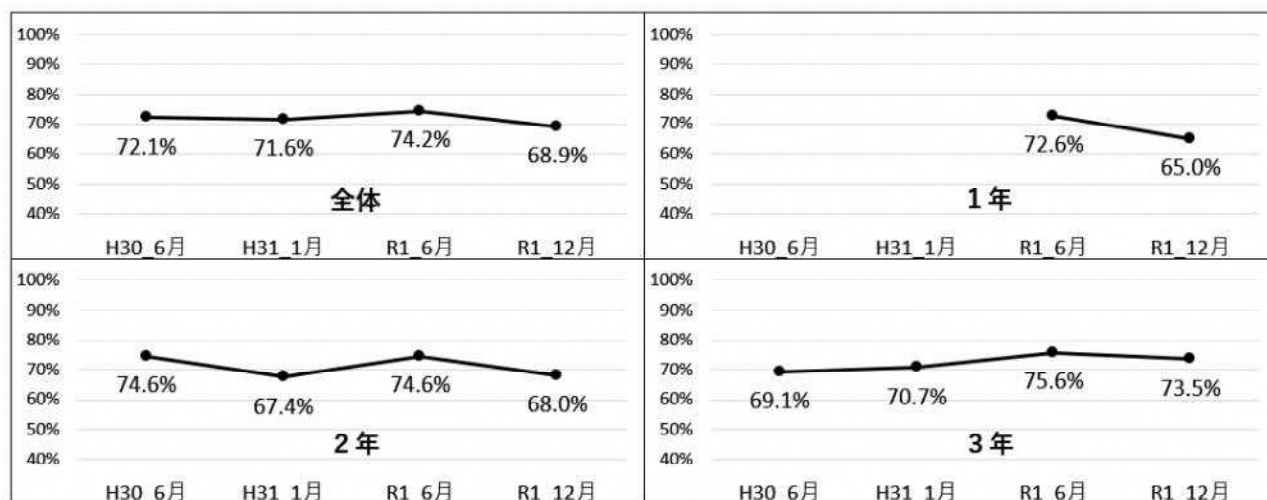
(1) 仮説：生徒に役割を与えて主体的に考え行動させることで、自己肯定感が高まる。

生徒たちの自己肯定感を高めるために、「南稜スタンダード」による分かる授業の取り組みや、交流学习、学校行事等の取り組みを行ってきたが、「心のアンケート」や自尊感情アンケートの結果を分析すると次のようになった。

問11 周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがありますか。



問12 周囲の人の役に立っていると思うことがありますか。



「心のアンケート」において「周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがありますか」と「周囲の人の役に立っていると思うことがありますか」の質問において、1年生ではと

もに肯定的な回答をした生徒の割合が低下しているが、学年が上がるにつれて改善傾向が見られる。

	質問項目	昨年度	今年度	増減
問5	自分のことが好き	36.3%	38.9%	2.6
問29	自分のことを大切な人だと思う	43.3%	52.8%	9.5
問11	得意なことや自慢できることがある	55.7%	52.6%	-3.1
問35	自慢できることが一つもない	62.2%	66.4%	4.2

自尊感情アンケートにおいては「得意なことや自慢できることがある」の質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が昨年度から若干低下しているものの、「自分のことが好き」、「自分のことを大切な人だと思う」、「自慢できることが一つもない」の各質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が上昇している。

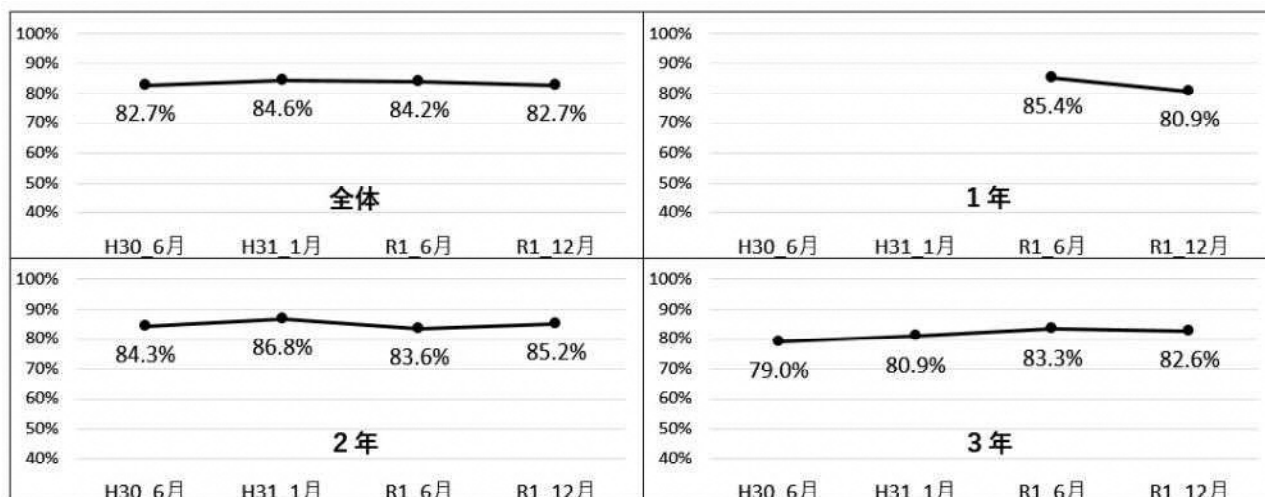
このことから「自分のことが好き」といった自己肯定感については概ね向上しているように思われるが、「周囲の人の役に立っている」といった自己有用感については3年生については改善傾向が見られるものの、1年生については低下している。このような結果になった要因として、学校行事においては3年生が中心になって引っ張っていることや、専門科目の授業においては1年生はまだ知識や技術が浅い一方、学年が上がるにつれて次第に身につけていき、さらにその身につけた知識や技術を小学生や地域の方など他人に教える機会が増えていることが考えられる。1年生において自己有用感をいかに高めていくかは課題であるが、学年が上がるごとに成長が見られ、一定の成果を上げているのではないかと考えられる。

(2) 仮説：他者を理解し、傾聴スキルを身につけさせれば、互いに悩みや相談事を話したり聞いたりするようになる生徒が増える。

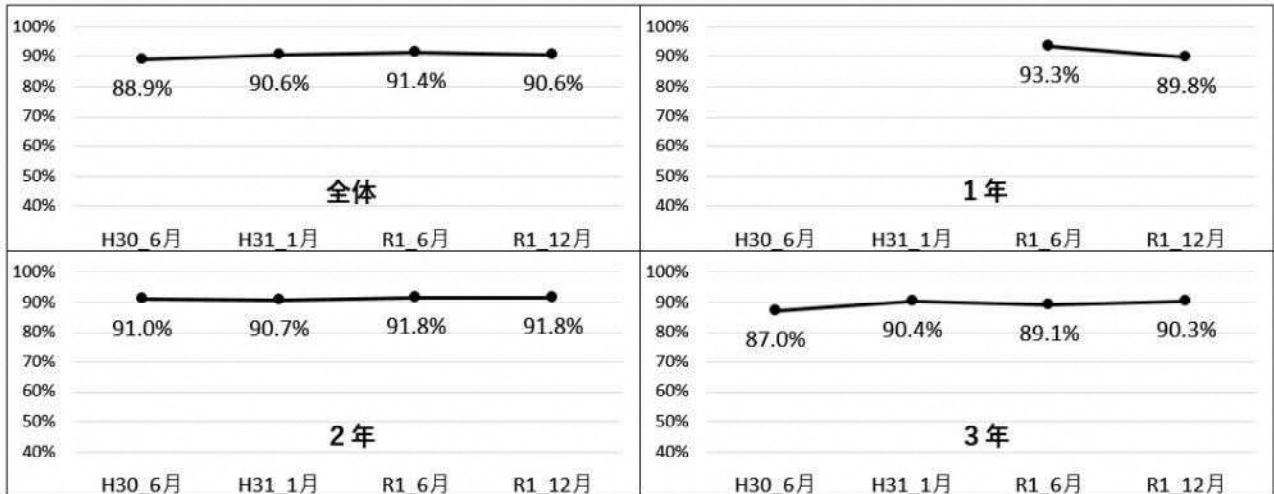
ピア・サポート研修やG R I P研修の取り組みで、相談事を話したり聞いたりするスキルを高め、互いに支え合う集団作りを目指したが、「心のアンケート」の結果を分析すると、次のようになった。

「心のアンケート」において「つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか」と「誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか」の質問において、1年生では肯定的な回答をした生徒の割合が低下しているが、2・3年生においてはわずかに上昇傾向が見られた。

問6 つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。



問9 誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。



本校生徒の中にはコミュニケーションを取ることを苦手としていたり、相手の気持ちを汲み取ることができなかつたりする生徒が多く、特に1年生において人間関係のトラブル等が目立つ状況である。そのような状況において、傾聴スキルを身につけ互いに支え合う集団作りを目指して取り組んでいくことは非常に大切なことであると考えるが、2・3年生に比べると互いに認め合い支え合うという点において、まだ十分に成熟した集団になっていないように思われる。

5 研究のまとめ

(1) 自己肯定感と他者理解の向上による人間性豊かな集団づくり

「南稜スタンダード」による分かる授業の展開や、専門科目における実習等の取り組み、また学校行事における取り組みをとおして自己肯定感や自己有用感の向上を目指してきた。自己肯定感については昨年度よりも向上したが、自己有用感については学年により差が出てしまったことから、目標を十分に達成することができなかった。特に1年生においては、人間関係のトラブル等も多く発生し、本研究の取り組みによる成果が十分に得られなかったように思われる。今後の課題として、1年生において他者理解とコミュニケーションスキルの向上を図る取り組みをさらに充実させる必要があると考える。

(2) 困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルの向上

今年度は1年生でピア・サポート研修、2・3年生でG R I P研修を実施し、悩みや相談事を聞くスキルだけでなく、話を切り出すときの感情の出し方や伝え方に関してワーク等をとおして身につける機会を設けた。10月23日の研究発表会ではピア・サポート研修およびG R I P研修の研究授業を生徒が進行役として進めていったが、昨年度に比べてどのクラスも授業に取り組む姿勢は良くなっており、参観された先生方からの反響も大変大きいものだった。「心のアンケート」の結果ではさほど大きな変化は見られなかったが、学年が上がるにつれて少しずつお互いに相談し合える集団に成長しているように思われる。

昨年度、今年度と新たな取り組みとして、ピア・サポート研修およびG R I P研修の授業を実施してきたが、生徒たちの困り感を表現したり受け止めたりするコミュニケーションスキルを向上させ、一人でも多くの生徒がゲートキーパーの



役割としてお互いに相談し合える集団作りにつなげられるように、この取り組みは来年度以降も継続して取り組んでいきたいと考えている。一方で本研究に取り組む中で見えてきた課題として、1年生において十分な効果が現れていないことが挙げられるが、今後は原因を細かく分析しながら、他者理解とコミュニケーションスキルの向上を図る取り組みを充実させ、お互いに認め合い支え合うことのできる人間性豊かな集団作りができるように取り組んでいきたい。

南稜スタンダード【改訂版】

平成30年1月5日

目指す授業で大切にしたいこと**授業に臨む姿勢**

- チャイムで始め、チャイムで終わる。(時間いっぱい粘らせる)
- 明るい表情で入室し、授業開始のあいさつをする。
- 教科書、ノート、ワークシートなど、学習用具の準備について家庭の協力を得ながら指導し、授業時は机や棚を整えて学習に向かう環境作りを行う。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のきまりを決めて、提示する。
- 話し方や書き方の例を示したり、自力解決のヒントとなる掲示物を準備したりする。
- 自らメモをとる習慣が身につくよう、場の設定を行う。

ユニバーサルデザイン

- わかりやすい教材・教具を活用する。(具体物、写真、ICTなど)
- ワークシートや課題プリントは、読みやすく、書きやすいように工夫する。
(ゴシック体の使用など)
- 授業の流れや内容が分かり、学習内容を振り返ることができるよう板書構成を工夫する。
- すべきことがはっきりと分かるよう、1つの指示で1つの行動を促す発問・指示を行う。

目標提示

- 毎時の授業で本時の目標(課題)を示す。

自 力

- 個々の主体的な学びを促す個別学習の時間を確保する。

協 働

- ペア学習、グループ学習など、ねらいに応じて様々な学習の形態を工夫する。
- 他者の考えを否定せず、分からないことを出し合い、学び合える雰囲気をつくる。
- よい反応や考えを取り上げ、その価値を共有し、肯定的に耳を傾ける雰囲気をつくる。
- 間違いや失敗は否定せず、いったん受け止め、次へとつながる解決方法を生徒に考えさせる。

まとめ・振り返り

- 本時の目標に沿ったまとめを行う。
- 最後まであきらめずに問題に取り組んだり、友達と一緒に考えたりした姿をほめる。

学習の深化

- 生徒自身が授業を振り返ることで成長を意識させ、次のステップの目標(課題)や取り組みにつなげる。

南稜スタンダード【農場版】

平成30年1月5日

目指す実習で大切にしたいこと

実習に臨む姿勢

- チャイムで始め、チャイムで終わる。(時間いっぱい粘らせる)
- 明るい表情で入室し、授業開始のあいさつをする。
- 教科書、ノート、ワークシートなど、学習用具の準備について家庭の協力を得ながら指導し、授業時は机や棚を整えて学習に向かう環境作りを行う。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のきまりを決めて、提示する。
- 話し方や書き方の例を示したり、自力解決のヒントとなる掲示物を準備したりする。
- 自らメモをとる習慣が身につくよう、常に筆記用具を携帯させ、場の設定を行う。

ユニバーサルデザイン

- わかりやすい教材・教具を活用する。(具体物、写真、ICTなど)
- ワークシートや課題プリントは、読みやすく、書きやすいように工夫する。
(ゴシック体の使用など)
- 授業の流れや内容が分かり、学習内容を振り返ることができるよう板書構成を工夫する。
- すべきことがはっきりと分かるよう、1つの指示で1つの行動を促す発問・指示を行う。

目標提示

- 毎時の授業で本時の目標(課題)を示す。

自 力

- 個々の主体的な学びを促す個別学習の時間を確保する。

協 働

- ペア学習、グループ学習など、ねらいに応じて様々な学習の形態を工夫する。
- 他者の考えを否定せず、分からないことを出し合い、学び合える雰囲気をつくる。
- よい反応や考えを取り上げ、その価値を共有し、肯定的に耳を傾ける雰囲気をつくる。
- 間違いや失敗は否定せず、いったん受け止め、次へとつながる解決方法を生徒に考えさせる。

まとめ・振り返り

- 本時の目標に沿ったまとめを行う。
- 最後まであきらめずに問題に取り組んだり、友達と一緒に考えたりした姿をほめる。

学習の深化

- 生徒自身が授業を振り返ることで成長を意識させ、次のステップの目標(課題)や取り組みにつなげる。

1 ねらい

- (1) 「ピア・サポート」や「ゲートキーパー」の意義や役割について理解し、生徒同士で、様々な困りごとや悩みを共有し合うことで、支え合う集団をつくることの大切さに気付くことができる。
- (2) 「話を聴くスキル」を身につけ、他者の話を聴き、話を受け止めることの大切さを理解し、日頃の生活に生かすことができる。

2 授業の概要

室長や保健委員を中心に、これまで取り組んできたピア・サポート研修の内容から、「ピア・サポート」や「ゲートキーパー」の意義や役割、「話を聴くスキル」について生徒に伝達し、実際に話を聴くワークを行う。「ピア・サポート」「ゲートキーパー」の意義や役割を学ぶ中で、生徒同士で、困りごとや悩みを共有することが、支え合いにつながることを理解する。「傾聴のスキル」を活用して話を聴くワークを通して、そのスキルの習得と、他者の話を受け止めることの大切さについて理解を深める。

3 所要時間 50分

4 準備するもの

〔配布物〕 ワークシート①② 話の種（それぞれ各生徒1枚）

5 授業の展開

活動内容	指導上の留意点	時間
① 本時の目的を確認する。	・「生徒同士で支え合う集団づくり」を目的とし、「ピア・サポート」研修を行ってきたことを伝え、本時の目的について知らせる。	2分
② 【ピア・サポート】【ゲートキーパー】の意義や役割を確認し、ワークシート①に記入する。	・「ピア」や「ゲートキーパー」の意味を明確にした上で、意義や役割について知らせる。	3分
③ ワークシート①に「話を聴くスキル」を記入する。	・「寄り添って・受け止める」を実践するスキルとして「話を聴くスキル」があることを確認させる。 ・「話を聴くスキル」には「うなづき」と「エピソードを引き出す技」の2種類があることを伝える。	3分
④ 「話を聴くスキル」を声に出して練習する。	・「あいづち」に関しては少し大げさになっても良いことを伝える。	1分
⑤ 「話を聴くワーク」についての説明を聞き、話の内容を考え、保健委員のモデルを見る。	・ワークシート②を見ながらやり方を確認するよう伝える。	15分
⑥ 「話を聴くワーク」を行う。(話す人)(話を聴く人)(観察者)の役割を決め、それぞれの役割で「話を聴くワーク」行ったあと、評価をつけ、感想をまとめる。	・3人～4人程度のグループをつくる。 ・(話す人)には、自分の悩みでも、話の種を利用した内容を話しても良いことを伝える。 ・(話を聴く人)は、「話を聴くスキル」を使って話を聴くことに専念するよう伝える。 ・(観察者)は、聴く人の様子を中心に評価・感想をまとめるよう伝える。 ・1回の会話のワークの後に、それぞれの立場での感想をまとめる時間を確保する。できるだけ1人で3つの役割それぞれができるよう配慮する。 ・巡回し各グループの状況を確認する。	20分
⑦ 本時の学習のまとめ(ワークシート①)記入と、全体の振り返りをする。	・「話を聴くスキル」を活用し、日頃からお互いのお話に耳を傾けることが、支え合う集団づくりにつながることを伝える。 ・ワークシート①は回収し、後日返却する。	6分

「やってみよう支え合い」ワークシート①

()年()科()号()

今日の目標

- ①「ピア・サポート」「ゲートキーパー」の役割を理解する。
- ②「話を聴くスキル」を身につけ、友人の話を受け止めることができるようになる。

○ 覚えよう

【ピア・サポート】

--

【ゲートキーパー】(門番)

・ ・ ・ ・ ・

引用：学校における自殺予防プログラム（阪中順子著）

【話を聴くスキル】

・「3つのあいづち」

①
②
③

・「3つのエピソードを引き出す技」

①
②
③

引用：「ホワイトボード・ミーティング検定公式テキストBasic3級」
(ちよんせいこ著/株式会社ひとまち)

○ 今日の授業の達成度を確認しよう。

(よくできた ◎ だいたいできた ○ もう少し努力が必要 △)

- ・「ピア・サポート」や「ゲートキーパー」の役割を理解できた ()
- ・「話を聴くスキル」を身につけることができた ()

○ 今日の授業の感想をまとめよう。

「やってみよう支え合い」ワークシート②

() 年 () 科 () 号 ()

やってみよう「話を聴くワーク」

《やり方》

- ① 3人組をつくります。(どうしても難しい時は、室長や保健委員の指示を聞いて4人組に)
- ② 話す人になった時の話す内容を考えます。※ 全員が1回は話す人になります。
- ③ 〈1回目〉話す人・話を聴く人・観察者を決めます。指示があったらワークを開始。
- ④ それぞれの立場で評価をつけ、感想をまとめましょう。
- ⑤ それぞれの評価と、感想をグループ内で共有しましょう。
- ⑥ 〈2回目〉〈3回目〉と役割を変えて繰り返します。

※ 注意点… 話を聴く人は出来るだけ「聴くスキル」を使いますが、他のあいづちや質問をしても構いません。

〈1回目〉【あなたの立場→ 話す人 話を聴く人 観察者】 自分の立場に○をつけよう

(よくできていた ◎ だいたいできていた ○ もう少し努力が必要 △)

- ・話をしっかり聴いていた ()
- ・気持ちをわかろうとしていた ()
- ・「聴くスキル」を活用し聴くことを大切にしていた ()

〈感想〉

〈2回目〉【あなたの立場→ 話す人 話を聴く人 観察者】 自分の立場に○をつけよう

(よくできていた ◎ だいたいできていた ○ もう少し努力が必要 △)

- ・話をしっかり聴いていた ()
- ・気持ちをわかろうとしていた ()
- ・「聴くスキル」を活用し聴くことを大切にしていた ()

〈感想〉

〈3回目〉【あなたの立場→ 話す人 話を聴く人 観察者】 自分の立場に○をつけよう

(よくできていた ◎ だいたいできていた ○ もう少し努力が必要 △)

- ・話をしっかり聴いていた ()
- ・気持ちをわかろうとしていた ()
- ・「聴くスキル」を活用し聴くことを大切にしていた ()

〈感想〉

4人組用 〈4回目〉【あなたの立場→ 話す人 話を聴く人 観察者】 自分の立場に○をつけよう

(よくできていた ◎ だいたいできていた ○ もう少し努力が必要 △)

- ・話をしっかり聴いていた ()
- ・気持ちをわかろうとしていた ()
- ・「聴くスキル」を活用し聴くことを大切にしていた ()

〈感想〉

話の種

☆ 話す内容で、中々悩みが浮かばない人は次の悩みを参考にしてみてください。

なかなか浮かばない人は最近嬉しかったこと、悲しかったこと、楽しかったことを話してみてください。

- 勉強ができない
何をどう勉強していいのかわからない。もう少し点数をとるにはどうしたらいいの？
- 部活動での、自分の技術が向上しない
練習の時ですら、やってみたいことがうまくできない。毎日部活には参加しているのにどうしたらいいのだろう。
- 朝が起きることができない
夜11時には寝ているのに。朝起きるのがつらい。
- 就職と進学でどちらに進めか悩んでいる
進学したい気持はあるが、どこに行って何を学びたいのかわからない。でも、就職もしたいところがわからない。
- 友達や先輩の言葉が気になる
友達や先輩が影でコソコソしていたりすると、自分のことじゃなくても、自分のことを言っているのではないかと思ってしまうことがある。

なかなか、ピンとこない人は
最近あった、嬉しかったこと
悲しかったこと、
楽しかったこと を話してみよう。

〈 話し手の時話す内容 〉 あなたが話し手になった時に話すことを簡単にまとめておこう。

「SOSの出し方に関する教育」指導案「他者との間で感情のやりとりを経験する」

令和元年10月23日(水) 5限LHR

1 ねらい

- (1) 「ゲートキーパー」の意義や役割について理解し、生徒同士が、様々な困りごとや悩みを共有し合うことで、支え合う集団をつくることの大切さに気付くことができる。
- (2) 感情の持ち方は人によって異なることに気づくことができる。
- (3) 自分の感情を他者に伝えるときのポイントを知り、伝え方を身につけることができる。

2 授業の概要

室長・副室長を中心に、これまで取り組んできたGRIP研修の内容から、「ゲートキーパー」の意義や役割、感情を言葉にして対処することの大切さについて再確認させる。「ゲートキーパー」の意義や役割を学ぶ中で、生徒同士で困りごとや、悩みを共有することが支え合いにつながることを理解する。また、「KINO」を通して、自分の感情を他者に伝える際は、さまざまな気持ちの変化や葛藤があることをふまえて感情を他者に伝えるときのポイントについて理解を深める。

3 所要時間 50分






4 準備するもの

〔配布物〕 KINO 表情カード(1セット)・KINO 記録用紙・KINOまとめプリント(それぞれ各生徒1枚)
KINO 状況カード(各グループに1セット)

5 授業の展開

活動内容	指導上の留意点	時間
① 本時の目的を確認する。	・「生徒同士で支え合う集団づくり」を目的とし、GRIP研修を行ってきたことを伝え、本時の目的について知らせる。	2分
② 【ゲートキーパー】の意義や役割を確認する。	・「ゲートキーパー」の意味を明確にした上で、意義や役割について知らせる。	1分
③ 嫌な気持ち(悲しい・つらい・苦しい)を友達に話すときの話しかけ方について考える。	・嫌な気持ちを話す時には、ためらいがあることを確認する。	5分
④ 状況カード1を使い「KINO」についての説明を聞き、目的とルールを理解する。	・KINO表情カード、KINO記録用紙を配布する。 ・表情カードに描かれている表情については、質問があっても「悲しい」「うれしい」などと言葉で説明せず、「どんな表情か自分で思い浮かべる」ように促す。	7分
⑤ 〈カントク〉を決め、「KINO」を行う。「KINO」を行ったあと、〈カントク〉は予想と結果について感想をまとめる。	・4人～6人程度のグループをつくる。 ・KINO状況カードをグループごとに配布する。 ・〈カントク〉には、予想がはずれても問題ないことを伝える。 ・(表情カードを出す人)は、カードの選択とその理由がそれぞれ異なることに問題はないことを伝える。 ・表情カードを選べない生徒がいた場合、「正解があるわけではない」「いろんな表情があったほうが良い」と促す。 ・表情カードを出したら、なぜその表情を選んだのか、お互いの考えを出すように促す。 ・巡回し各グループの状況を確認する。	30分
⑥ 本時の学習のまとめと、感想用紙を記入する。	・感情や気持ちの持ち方や、話のかけ方はそれぞれ異なることを確認する。 ・感想用紙を回収する。	5分

KINO 記録用紙

() 回目		
状況カードの内容 (簡単に)		
表情カード	カードの数を予想せよ	実際の数
	枚	枚
	枚	枚
	枚	枚
	枚	枚
	枚	枚

KINOは、映画かんとく(や俳優)のように「伝えるときの表情や様子」を考えるゲームです。

すすめ方：基本的に4人一組です。1回ごとに「カントク」を決めます。

- ① 5枚のカードを絵の側を自分に向けて(ばばぬきのように)持ちます。
- ② 先生が説明する場面で、「KINO 君がしそうな表情」のカードを1枚選び、机にふせて出します。
- ③ 全員がカードを出すまで、待ちましょう。(カントクも出します)
- ④ カントクは、自分の「集計票」に予想枚数を書き、ほかの3人に説明します。
- ⑤ 先生の合図で4人いっせいにカードを表に戻します
 - ▶ 話してみよう
 - 1 カントクの予想の理由について
 - 2 なぜそのカードを出したのかについて
- ⑥ カントクは、実際の数を集計票に書いてください(自分のカードも含みます)。
- ⑦ カントクは気づいたことを下のメモ欄に書いてください

メモ欄

自分と違う考え方の人はいましたか？どう違いますか？(予想は当たりましたか？)

自分がカードを出すとき迷いましたか？

その他

状況カード
01



なんて言うか…

最近、授業がよくわからない。
もうすぐテストだし、
なんかもやもやし方気持ち。
いつも一緒にふざけてばかりのSに、
まじめな相談してもいいかな。

GRP 294-2 KNO 100004 KNO 01100320830-F 5/14

状況カード
02



放課後に、
相談した方がいいかな…

いつも元気な友だちのTは、
最近少し元気がない。
「暗いなー」とからかったら、
「べつにっ」と言われたけど。Tのこと、
先生に相談した方がいいかな。

GRP 294-2 KNO 100004 KNO 01100320830-F 5/14

状況カード
03



実はさあ

私は／僕は、ポケモンが大好き。
友だちは皆、モンハン好きなので
いつも話ができない。どうなるか
不安だけど、話してみようかな。

GRP 資料 4-2 KINO 株式会社 KINO のすすめること支援会 - F 014

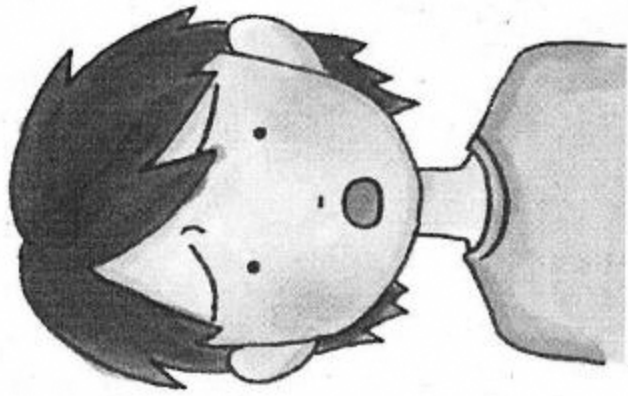
状況カード
04



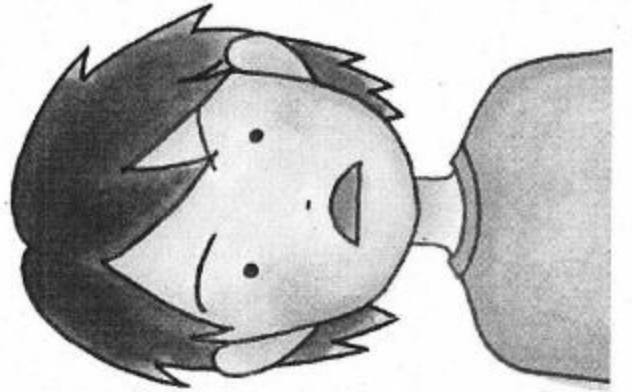
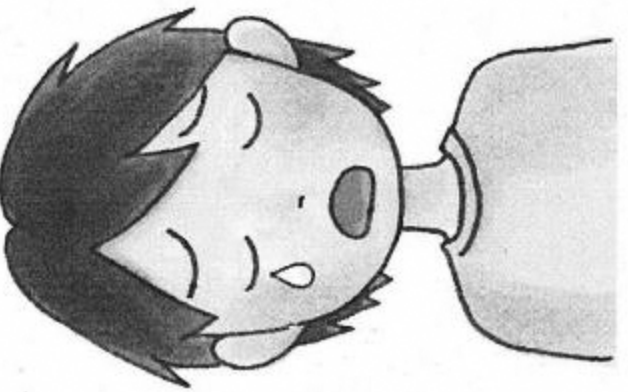
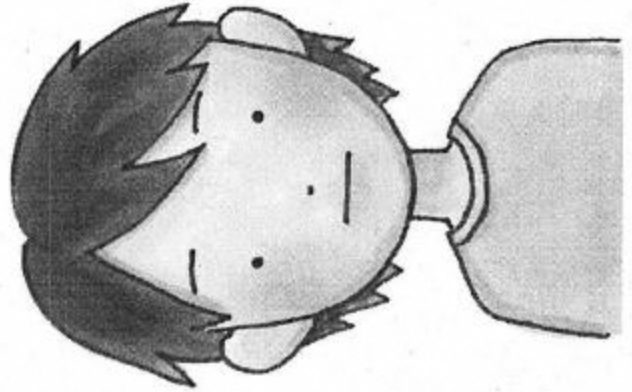
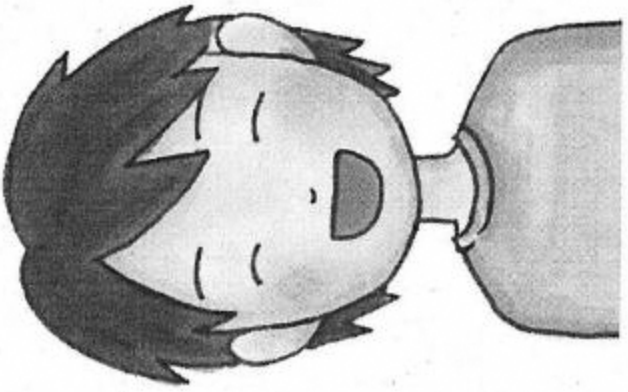
聞いてくれる？

「はあ、テストゆううつ」
と思いながら帰ろうとしたら、
いつも冗談ばかり言ってる S が
「最近元気ないね、どうしたの？」
と心配そうに聞いてくれた。
相談してみようかな。

GRP 資料 4-2 KINO 株式会社 KINO のすすめること支援会 - F 014



GRIP 資料 4-4 KINCO 表情カード
5種1セット



話を切り出すときの、せりふを増やそう。
下のなかで、使えそうなせりふをチェックしよう。

- | | |
|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 聞いてほしいことが… | <input type="checkbox"/> ちょっと聞いてよ |
| <input type="checkbox"/> 放課後に相談したいことが… | <input type="checkbox"/> なんて言うか… |
| <input type="checkbox"/> 先生、知ってる？ | <input type="checkbox"/> 実はさあ |
| <input type="checkbox"/> ちょっとつらいんだ… | <input type="checkbox"/> 最近ね… |

授業で気づいたことをメモしておこう

表情は個性、いろいろあって当たり前



上手な人の伝え方をまねしてみよう（小さなチャレンジ）

ためらいがあっても、ちゃんと聞いてくれる人がいれば話し出せる

資料4

南稜版「心のアンケート」

全体	H30 6月	H31 1月	R1 6月	R1 12月	
1	学校が楽しいか	89.9%	88.1%	91.4%	90.8%
2	友だちと活動するのが楽しいか	96.5%	94.4%	97.3%	97.5%
3	授業を理解できているか	89.4%	84.6%	90.7%	89.9%
4	先生は授業を分かりやすく教えているか	94.3%	92.2%	94.8%	95.2%
5	学校は生徒の将来を考えて指導しているか	94.1%	93.2%	95.5%	96.1%
6	つらい思いをしたとき、相談できているか	82.7%	84.6%	84.2%	82.7%
7	心を開いて接することができる先生がいるか	64.9%	69.4%	69.0%	66.4%
8	毎日の生活に充実感を感じているか	84.0%	82.0%	86.7%	84.3%
9	誰かが困っているときに助言や手助けができるか	88.9%	90.6%	91.4%	90.6%
10	言葉づかいや行動に気をつけることができているか	87.9%	88.9%	92.5%	90.6%
11	周囲にほめられたり、認められたりしたことがあるか	89.1%	88.1%	91.2%	87.8%
12	周囲の人の役に立っていると思うか	72.1%	71.6%	74.2%	68.9%
13	友だちと協力して物事に取り組んでいるか	95.3%	94.2%	94.1%	94.5%
14	周囲の人をほめたり、認めたりしているか	95.6%	95.4%	94.1%	94.2%
15	周囲の人に感謝する気持ちを伝えているか	95.3%	96.7%	95.5%	96.8%
16	自分の進路について考えることができているか	84.7%	88.4%	87.8%	89.9%
17	学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることもあるか	93.6%	91.6%	91.0%	92.4%
18	自分自身のいのちに感謝しているか	94.3%	93.7%	94.8%	95.9%

1年	H30 6月	H31 1月	R1 6月	R1 12月
1	学校が楽しいか		95.1%	93.6%
2	友だちと活動するのが楽しいか		97.0%	97.5%
3	授業を理解できているか		94.5%	88.5%
4	先生は授業を分かりやすく教えているか		97.6%	94.9%
5	学校は生徒の将来を考えて指導しているか		96.3%	96.2%
6	つらい思いをしたとき、相談できているか		85.4%	80.9%
7	心を開いて接することができる先生がいるか		65.9%	66.9%
8	毎日の生活に充実感を感じているか		90.9%	86.6%
9	誰かが困っているときに助言や手助けができるか		93.3%	89.8%
10	言葉づかいや行動に気をつけることができているか		93.9%	89.2%
11	周囲にほめられたり、認められたりしたことがあるか		88.4%	84.1%
12	周囲の人の役に立っていると思うか		72.6%	65.0%
13	友だちと協力して物事に取り組んでいるか		95.1%	91.1%
14	周囲の人をほめたり、認めたりしているか		93.9%	91.7%
15	周囲の人に感謝する気持ちを伝えているか		96.3%	98.1%
16	自分の進路について考えることができているか		87.8%	87.3%
17	学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることもあるか		92.7%	94.3%
18	自分自身のいのちに感謝しているか		97.0%	97.5%

2年		H30 6月	H31 1月	R1 6月	R1 12月
1	学校が楽しいか	91.8%	90.7%	90.2%	92.6%
2	友だちと活動するのが楽しいか	98.5%	96.1%	96.7%	100.0%
3	授業を理解できているか	93.3%	84.5%	86.1%	87.7%
4	先生は授業を分かりやすく教えているか	94.0%	89.1%	88.5%	94.3%
5	学校は生徒の将来を考えて指導しているか	91.0%	91.5%	93.4%	97.5%
6	つらい思いをしたとき、相談できているか	84.3%	86.8%	83.6%	85.2%
7	心を開いて接することができる先生がいるか	57.5%	58.9%	71.3%	68.9%
8	毎日の生活に充実感を感じているか	88.1%	78.3%	86.9%	82.8%
9	誰かが困っているときに助言や手助けができるか	91.0%	90.7%	91.8%	91.8%
10	言葉づかいや行動に気をつけることができているか	91.0%	85.3%	90.2%	90.2%
11	周囲にほめられたり、認められたりしたことがあるか	91.8%	86.8%	94.3%	91.0%
12	周囲の人の役に立っていると思うか	74.6%	67.4%	74.6%	68.0%
13	友だちと協力して物事に取り組んでいるか	97.0%	96.1%	93.4%	96.7%
14	周囲の人をほめたり、認めたりしているか	97.0%	94.6%	92.6%	97.5%
15	周囲の人に感謝する気持ちを伝えているか	96.3%	96.1%	92.6%	96.7%
16	自分の進路について考えることができているか	85.8%	84.5%	87.7%	89.3%
17	学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることもあるか	97.0%	87.6%	87.7%	88.5%
18	自分自身のいのちに感謝しているか	97.0%	92.2%	90.2%	95.9%

3年		H30 6月	H31 1月	R1 6月	R1 12月
1	学校が楽しいか	88.3%	83.4%	88.5%	86.5%
2	友だちと活動するのが楽しいか	96.9%	93.6%	98.1%	95.5%
3	授業を理解できているか	89.5%	82.8%	90.4%	92.9%
4	先生は授業を分かりやすく教えているか	95.1%	93.0%	96.8%	96.1%
5	学校は生徒の将来を考えて指導しているか	95.7%	94.3%	96.2%	94.8%
6	つらい思いをしたとき、相談できているか	79.0%	80.9%	83.3%	82.6%
7	心を開いて接することができる先生がいるか	63.0%	70.1%	70.5%	63.9%
8	毎日の生活に充実感を感じているか	77.8%	78.3%	82.1%	83.2%
9	誰かが困っているときに助言や手助けができるか	87.0%	90.4%	89.1%	90.3%
10	言葉づかいや行動に気をつけることができているか	87.0%	89.8%	92.9%	92.3%
11	周囲にほめられたり、認められたりしたことがあるか	85.8%	86.0%	91.7%	89.0%
12	周囲の人の役に立っていると思うか	69.1%	70.7%	75.6%	73.5%
13	友だちと協力して物事に取り組んでいるか	94.4%	93.6%	93.6%	96.1%
14	周囲の人をほめたり、認めたりしているか	95.7%	95.5%	95.5%	94.2%
15	周囲の人に感謝する気持ちを伝えているか	95.7%	95.5%	96.8%	95.5%
16	自分の進路について考えることができているか	79.0%	86.0%	87.8%	92.9%
17	学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることもあるか	92.0%	91.1%	91.7%	93.5%
18	自分自身のいのちに感謝しているか	93.2%	93.6%	96.2%	94.2%

資料5

自尊感情に関するアンケート

	質問項目	今回	前回	増減
問1	他の人が自分のことをどう思っているか気になる	33.6%	24.4%	9.2
問2	本を読むのが好き	58.2%	62.7%	-4.5
問3	家族に大切にされている	96.0%	91.2%	4.8
問4	自分の体で変えたいところがある	24.6%	22.9%	1.7
問5	自分のことが好き	38.9%	36.3%	2.6
問6	宿題を忘れないでする	64.9%	64.0%	0.9
問7	他の人は私の話を面白くないと思っている	57.3%	58.9%	-1.6
問8	学校の成績が良い	33.5%	34.0%	-0.5
問9	家族と一緒にいることが好き	75.6%	67.5%	8.1
問10	体や服のことが気になる	30.7%	32.0%	-1.3
問11	得意なことや自慢できることがある	52.6%	55.7%	-3.1
問12	ウソをつくことがある	37.6%	39.2%	-1.6
問13	友達は私の意見をよく聞いてくれる	86.9%	87.0%	-0.1
問14	先生の話をよく分かりたいと思う	74.1%	69.4%	4.7
問15	家族は私の話をよく聞いてくれる	87.3%	79.7%	7.6
問16	自分のことをかっこいいと思う	10.6%	10.6%	0.0
問17	他の人に生まれ変わりたいと思う	39.6%	34.9%	4.7
問18	家族が自分のしたいことをさせてくれないと怒りをおぼえる	58.0%	52.2%	5.8
問19	友達がたくさんいる	67.9%	67.2%	0.7
問20	勉強があまり得意でない	19.1%	16.6%	2.5
問21	家族に迷惑をかけていると思う	22.2%	27.1%	-4.9
問22	自分の顔が好きでない	30.7%	23.5%	7.2
問23	友達の言いなりになってしまうことがある	56.7%	58.7%	-2.0
問24	注意されなくても後片付けをする	69.8%	65.3%	4.5
問25	自分から進んで友達をつくることができる	58.2%	55.6%	2.6
問26	勉強するときに時間がかかってしまう	20.0%	23.3%	-3.3
問27	家族は私のことをほめてくれる	76.9%	70.1%	6.8
問28	今の体型が好きだ	27.5%	23.5%	4.0
問29	自分のことを大切な人だと思う	52.8%	43.3%	9.5
問30	試合に勝とうとしてルールを守らないことがある	89.2%	88.3%	0.9
問31	友達を作るのがもっと上手だったらと思う	27.3%	27.6%	-0.3
問32	勉強は楽しい	23.1%	20.4%	2.7
問33	家でわがままをしている	52.0%	56.7%	-4.7
問34	私の笑顔は素敵だ	30.8%	27.5%	3.3
問35	自慢できることが一つもない	66.4%	62.2%	4.2